

上野地区まちづくりにおけるウォーカブル推進について

1 背景・目的

区では、上野地区まちづくりビジョンに掲げる2040年代頃の上野の将来像実現に向けて、歩行者優先でわかりやすく、居心地が良く歩きたくなる都市空間の創出を図るウォーカブルなまちづくりを推進している。歩行者の回遊を促進することにより、賑わいや交流を創出し、上野地区の魅力・価値の更なる向上を図っていく。

2 上野公園北部エリアまちづくりイベントの実施結果

上野公園北部エリアの将来イメージの検討や回遊性向上につなげることを目的に、エリア内の関係機関と連携して本イベントを実施した。

歩行者への車道開放をはじめ、道路上での憩い・潤い空間の創出や各施設の開門により、居心地が良く回遊しやすい歩行者空間を創出した。また、各文化・芸術施設では賑わい・交流に資する空間活用を行った。



(1) 実施日時

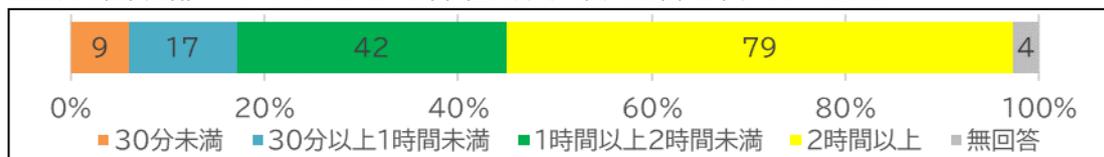
令和6年9月6日(金)、7日(土) 各日9時～21時 ※両日とも晴れ
※交通規制は9月6日(金)6時～9月7日(土)22時

(2) 実施状況



(3)アンケート結果 ※インターネット回答、N=151

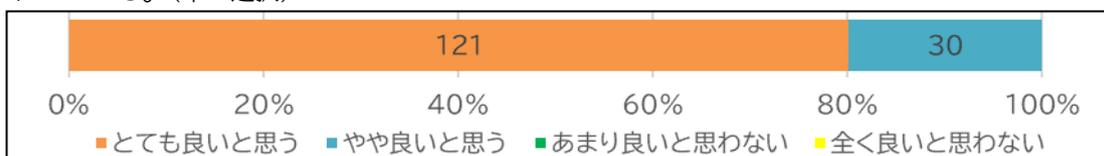
●上野公園北部エリアにおける滞在時間（予定含む）。（単一選択）



●本イベントに参加することで、これまでより上野公園北部エリアで訪れた施設や場所が増えたか。（単一選択）



●「東京国立博物館 北門・西門・黒門の開門」など、施設の出入口が増えることについて。（単一選択）



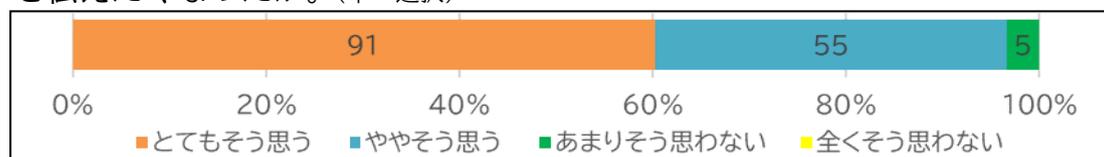
●「歩行者への車道開放」など、歩行者にとって歩きやすい道路空間づくりを行うことについて。（単一選択）



●道路空間において、「ベンチ」、「イス・テーブル」などで休憩できることについて。（単一選択）



●本イベントに参加して、家族、友人・知人、同僚に、上野公園北部エリアの魅力を伝えたいと思ったか。（単一選択）



●主な意見

- ・上野恩賜公園と本エリアが繋がり、歩きやすくなってよかった。
- ・普段入れない施設に入ることができ、本エリアの魅力を再発見した。
- ・東京国立博物館の各門が開門され、様々な方向からアクセスできてよかった。
- ・歩行者専用化されて歩きやすい空間が作られていたが、休憩できる場所が局所的で少なかった。
- ・自動車通行の迂回ルートのご案内が分かりづらかった。

(4)歩行者の状況

- ・本イベント時の歩行者通行量は、過去の調査時点に比べ大幅に増加したが、車道を歩行者に開放し歩きやすい空間を創出したことにより、歩行者の円滑な通行を確保することができた。
- ・開放された車道上では、周囲の景観や雰囲気を感じながら、ゆったりと歩いている方の姿が多く見られた。

【参考：旧東京音楽学校奏楽堂前の都道452号の歩行者交通量】

○平日

日時	藝大方面から東博正門方面への歩行者数	東博正門方面から藝大方面への歩行者数
令和6年9月6日(金)9時~21時	約2,900人	約3,100人
【参考】平成31年4月23日(火)7時~21時	1,210人	1,863人

○休日

日時	藝大方面から東博正門方面への歩行者数	東博正門方面から藝大方面への歩行者数
令和6年9月7日(土)9時~21時	約10,300人	約6,900人
【参考】平成31年4月21日(日)7時~21時	1,152人	2,285人

3 令和6年度の今後の取組(予定)

(1)上野広小路ヒロバ化社会実験

○目的 杜・まち・駅の回遊性向上に向け、道路空間の活用可能性の検討につなげることを目的に、JR上野駅広小路広場前の中央通りを歩行者に開放する社会実験イベントを、上野まちづくり協議会(主催)と連携して実施する。

○日時 令和6年10月27日(日)午後 ※時間は調整中

○場所 右図のとおり

(2)パンダバシピクニック 2024 Autumn

○目的 杜・まち・駅の回遊性向上に向け、パブリックスペースの活用可能性の検討につなげることを目的に、パンダ橋に賑わい・交流を創出する社会実験イベントを東日本旅客鉄道株式会社(主催)と連携して実施する。

○日時 令和6年10月26日(土)、27日(日) 各日午後 ※時間は調整中

○場所 右図のとおり



(3)周知

広報たいとう、ホームページ、SNS、ポスター、チラシ